

- ① 災害派遣用車両「DMATカー」を配備しました
 - 名古屋ウィメンズマラソン2014の救護活動に参加
 - 季節のお話/熱中症
- ② 東海地域ではじめて、名大病院が200例の肝移植を実施
 - 新任挨拶
 - 提案書からの改善報告
 - ナディック通信
- ③ 健やかな睡眠のために
 - 医療の質の向上のために
 - 第1回 Patient Safety & Quality Award (医療の質・安全大賞) 優秀賞受賞!
 - 患者誤認事故防止キャンペーン実施中
 - 禁煙のお願い
- ④ 名大病院とベトナムに「内視鏡トレーニングセンター」開設
 - 健康講座
 - ミニニュース
 - 看護師募集
 - かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。基本方針 ● 一、安全かつ最高水準の医療を提供します。 一、優れた医療人を養成します。 一、次代を担う新しい医療を開拓します。 一、地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/index.html

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

TOPICS ① 災害派遣用車両「DMATカー」を配備しました

救急部・EMICU部長の松田直之教授に、DMATカーについて伺いました。

1995年の阪神・淡路大震災では、適切な初期搬送が受けられなかったために500人以上の貴重な命が失われました。その反省を踏まえて10年後に発足したのが、医師がいち早く災害現場へ駆け付けて活動できる「災害派遣医療チーム DMAT」です (DMATは、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をつないだもの)。DMATは、専門のトレーニングを受け、試験に合格した医師、看護師、薬剤師、事務員等が隊員となります。名大病院では現在、9名が隊員として認められています。

愛知県は近年、南海トラフ大地震など大きな自然災害が予想されるほか、大規模火災や脱線事故など、いっどこで大災害が発生するかわかりません。そんな時、一刻も早く現場へ向かえるよう、地域を守る災害拠点病院として、名大病院では今年2月、DMATカーを配備しました。DMATカーは救助に必要な資機材を運搬し、現地で災害医療活動を行うための車両です。医療器具のほか情報通信機器、隊員が現地でも数日間過ごせる生活物資などを積み込むことが出



DMATは、災害現場でも病院の中と同じような救急医療ができるように、しっかりとした医療技術を持つことが必要です。そのため隊員一人ひとりが、外に出た時にも十分な医療が展開できるように、普段から自らの技量を高める努力をしています。また、災害時の出動が円滑に出来るよう、毎年「広域災害訓練」でDMAT出動と受け入れの訓練を実施します。

愛知県内には現在、名大病院を含め34か所の災害拠点病院があります。大きな災害で多数の傷病者が出た場合、一つの病院では対応しきれないため、他の災害拠点病院と連絡を取り、緊急性の高い患者さんから診療していく医療システムを構築しています。もしもの時、他の災害拠点病院と連携し迅速で的確な救急医療ができるように、名大病院でも救急医療に取り組み、災害時に備えています。



名古屋ウィメンズマラソン2014の救護活動に参加

日本を代表する女子マラソン大会「名古屋ウィメンズマラソン」が、今年も3月9日(日)に開催されました。1万5000人超の女性ランナーの命を守ったのが、コースに16か所設けられた救護所と多数の医療スタッフです。

名大病院では昨年に続き、5人編成の医療救護隊を派遣しました。場所はランナーの傷病が多いことで知られる27.5km地点。統計では心肺停止になるランナーは約20万人中1人ですが、昨年同様、心肺停止患者は出ませんでした。吐き気や筋痙攣など、65人の傷病者の対応を行いました。



季節のお話

熱中症に気をつけよう

救急部・EMICU部長 松田 直之



夏の気温が、全国で上昇しています。地球温暖化を防ぐこと、産業熱を低下させること、これらはとても大切です。一方で、私たちの体は長時間にわたって熱にさらされると、神経を含めたさまざまな細胞の機能が損なわれてしまいます。

まず、体がだるくなる、痙攣が起きることもある、大量の汗がでる、腎臓の機能が低下するなどの症状が生じます。このような熱に暴露されることで、体の恒常性が損なわれる状態を「熱中症」と呼んでいます。

熱中症にならないように、皆がお互いに注意することが大切です。暑すぎる環境で頑張らずに、休んだり、体を冷却したり、水分を補充するように気をつけるとよいでしょう。「休憩」・「冷却」・「水分補給」、これが熱中症対策の3つのポイントです。

東海地域ではじめて、

名大病院が200例の肝移植を実施

移植外科長 小倉 靖弘

名 大病院での第1例目肝移植は、重い肝臓病の子どもに対して、1998年11月9日に実施されました。それから約15年余りを経て、本年2月12日に当院での200例目に到達いたしました。全国で肝移植実施施設はおよそ60施設ありますが、東海地域での200例の肝移植実施ははじめてです。

重度の肝疾患で生命の危険にある患者さんにとっての「命の贈り物」といわれる肝臓移植は、「患者さんに近い身内から肝臓の一部の提供を受けて実施する生体肝移植」と「脳死となった臓器提供者から肝臓提供を受ける脳死肝移植」に分けられます。

名大病院での200例の肝移植の内訳は、生体肝移植が181件（小児73例、成人108例）、脳死肝移植が19件（小児1例、成人18例）となっています。全200症例の1年生生存率は88.4%、最近10年の158例（小児55例、成人103例）でみると、1年生生存率94.9%（小児98.2%、成人93.1%）と非常に良い治療成績となってきました。余命数週間〜数年といわれる重症の肝臓疾患の患者さんにとっては、まさに「命の贈り物」といえる治療です。

日本全体で見ると累積肝移植件数は、2011年末の集計で6642件に達しておりますが、そのほとんどは生体肝移植に依存しております。最近の国内の肝移植の傾向としては脳死肝移植件数がやや増加し、生体肝移植がおおよそ400件/年、脳死肝移植が40件/年となっております。

今回の名大病院の肝移植件数200例到達はひとつの通過点ではありますが、東海地域を中心に、これからも重症肝疾患患者さんに対して肝臓移植治療を提供していくよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

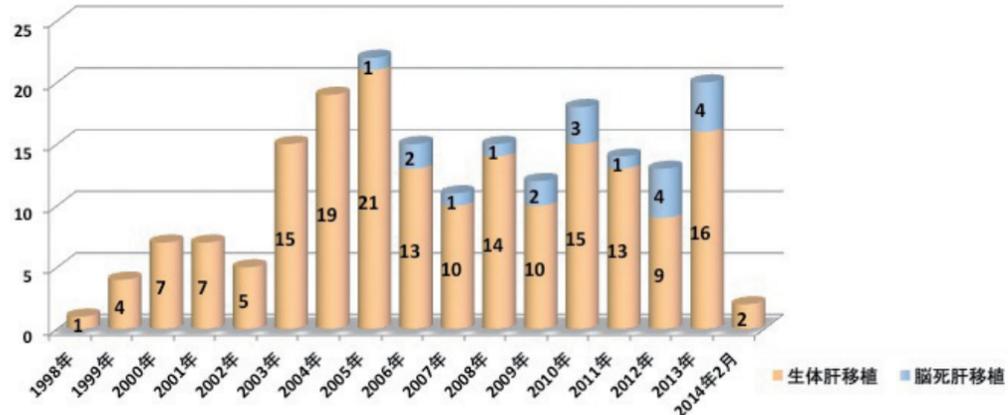
治療に関するご質問など、当院移植外科または移植連携室まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



200例目の生体肝移植風景

診療科ホームページ
http://www.med.nagoya-u.ac.jp/transplantation_surgery/

名大病院の年次別移植件数



病院からの お知らせ

提案書からの改善報告

当院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、機能評価・患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函いただいたご提案からのサービス改善策を検討し実施しています。

提案箱では、現在1ヶ月あたり約100件のご提案をいただいております。提案書を回収次第、患者さんのご意見の速やかな検討を現場で図るとともに、その後委員会にて、いただいた提案書の1件1件における対応策の検討を行うことで、サービス改善を実施しています。

サービス改善の主な内容については、外来棟1階中央待合ホールに設置しているモニターへの掲示により、患者さんへの回答を図っています。

院内における設備面の主な改善

患者さんが利用する設備や機器などは日々の点検や更新を実施していますが、平成25年度では、以下の改善を実施しました。

- 1) 病棟コア食堂における視界抑制のガラスフィルムの貼付による、入院患者さんへのプライバシーの確保。
- 2) 外来棟正面玄関に設置している車椅子のタイヤ交換及び車椅子の増設。
- 3) 検査部の採尿室において、採尿する際に手荷物が置けるようにトイレ棚板の取り付け。



新任挨拶

血液内科長 教授 清井 仁



この度、5月1日付けをもちまして、名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座 血液・腫瘍内科学の教授を拝命いたしました。紙面をお借りいたしましたこと挨拶申し上げます。

血液内科は造血器腫瘍疾患、貧血・造血障害疾患、出血性疾患など血液の異常に関係する様々な病気の診療を担当しています。血液疾患は発症や進展に関係する分子機構の解明が最も進んでいる領域のひとつで、その成果は病気の診断だけでなく、分子標的療法などの新しい治療法へと応用されています。今後さらに、血液疾患の分子病態の解明と新規治療法や新しい造血幹細胞移植療法の開発などを通して、最新かつ最良で患者さんに優しい医療を提供することに努めていく所存であります。皆様には、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Nagoya Disease Information Center

ナディック 通信



名大病院では、患者さんが安心・納得して医療を受けることができるように、患者さん自身が医療に関する情報収集ができる場にしたいという願いを込めて、「広場ナディック」を開設しています。

平成18年5月に開設し、昨年度は4,226名の患者さんやご家族にご利用いただいております。一般的な医学書から各種疾患のパンフレット、患者会の資料やインターネット・DVD等視聴設備を利用したの情報収集や学習ができるようになっています。

その他にも手作り教室、神経内科音楽療法、老年内科音楽療法、ちぎり絵教、がん相談員の出張相談、ウィッグ・頭皮ケアの相談会、リンパ浮腫勉強会など定期的に開催しておりますのでお気軽にご参加下さい。

- ・場 所 中央診療棟2階
- ・利用時間 平日10時～16時
(年末年始及びゴールデンウィーク除く)



特集 TOPICS ③

健やかな睡眠のために (睡眠医学寄附講座開講)

睡眠医学寄附講座 准教授 大竹 宏直



〈睡眠についてお聞かせください〉

「健やかな睡眠のために」とは、言い換えれば「健やかな日常生活を送るために」と同義であると考えます。睡眠時間を仮に8時間とするなら、1日の3分の1は睡眠ということになります。この3分の1の質あるいは量の低下は、日中のパフォーマンスの低下を招くことを、一度は経験したことがあるかもしれません。仕事、試験、子育て、などなど。現代社会は24時間社会であり便利である一方、必要な睡眠を取ることが難しい現状もあります。OECDが加盟30カ国の調査から、2011年に発表した報告によると、睡眠時間が最も短いのは日本で、平日の平均睡眠時間は7時間14分でありました。もちろん、長く眠れば良いということでは決してありませんが、この日本人における睡眠時間の短さが、悪影響を与えていると推察されるデータも散見されます。

睡眠障害は睡眠障害国際分類第2版(※)において80種類以上に分類されます。この中には、自然経過によって改善が期待できるものから、放っておくと重大な疾患や事故につながる恐れのあるものまであります。ある程度原因や病態生理が明らかになった疾患もありますが、まだ解明されていない疾患もあります。また、いくつかの睡眠障害の代表的検査である終夜睡眠ポリグラフィーは、検者・被験者ともに負担が大きいので、より簡便で尚且つ正確な診断ツールの開発が求められています。

本年4月に、耳鼻いんこう科医の准教授1名、精神科医の講師1名、臨床検査技師の助教1名と専属技師1名で開講しました睡眠医学寄附講座は、そのような睡眠障害や関連する疾患の研究および診断のための新しい検査手法の開発・検討とともに、より良い日常生活を過ごすためにどのように睡眠と付き合っていけばよいのかを探求し、広く啓蒙する目的に設立いたしました。診療面においては、これまでの耳鼻いんこう科、精神科での外来診療に加え、専門外来として睡眠時無呼吸外来(完全予約制)の設置をするとともに、今後新たに睡眠外来(仮)を検討しています。前述のように睡眠障害は多種多様です。この外来が窓口となり、関連各科と円滑な連携構築により、名大病院における睡眠医療の充足を目指します。

皆様の Good Sleep, Good Life の一助になりますよう研究・活動してまいります。

※睡眠障害国際分類第2版: International Classification of Sleep Disorders (ICSD 2nd.)

「質の高い医療を受けた」とは、病気になる時どき誰もが抱く気持ちです。それに応えるべく我々医療者は努力しています。

では、この医療の質とは何でしょうか？手術成績だという方や、待ち時間の少ない外来であるとか、もしくは看護師さんの温かい笑顔だと思われる方もいるかもしれません。日本医療機能評価機構という第三者機関が、様々な観点から質の高い病院の基準を定めており、多くの医療機関がこの審査を受けています。当院は4年前に初めて認定を受け、今年度中に更新審査を予定しています。

外部からの評価を真摯に受けとめ、病院全体でより質の高い医療提供を検討していく継続的な改善サイクルが確立できるよう取り組んでいきたいと思っております。

医療の質・安全管理部 副部長 安田 あゆ子



禁煙のお願い



患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

医療の質・安全管理部からのお知らせ

第1回 Patient Safety & Quality Award (医療の質・安全大賞) 優秀賞受賞!



5月20日(火)に大阪大学で開催された第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会において「第1回 Patient Safety & Quality Award (医療の質・安全大賞)」の表彰式が執り行われ、当院における取組み事例である「患者さんの容態悪化などの異常徴候を早期にキャッチし患者さんにとって最良となる治療を可能とするための組織体制(RRS; Rapid Response System (ラピッド・レスポンス・システム))」が、優秀賞に選考されました。

今後も同システムの改善に努め、院内救命の質向上を目指します。

患者誤認事故防止キャンペーン実施中!

当院では、患者安全のため、本人確認を全職員に徹底しております。**フルネームと生年月日を職員にお伝え下さい。**

病院には多くの方が診療に訪れるため、治療・検査を受ける患者さんを間違えてしまうことが起こりえます。似たお名前、雰囲気、状況など「まさか、自分が」というタイミングで間違いは発生します。事故発生を防ぐために、当院では様々な行為の前にはお名前(フルネーム)と生年月日を確認することを全職員に徹底しております。何度もお名前をお尋ねしますが、安全な医療提供のためにご協力をお願いいたします。

特集 TOPICS ④

名大病院とベトナムに 「内視鏡トレーニングセンター」 開設

長年にわたって内視鏡の診断・治療技術の向上に努めてきた消化器内科長の後藤秀実教授に、内視鏡トレーニングセンターについてお話を伺いました。



内 視鏡は1950年の誕生当初、胃の中を写す胃カメラだけで

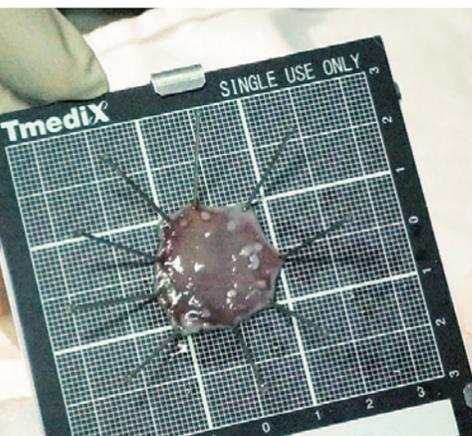
したが、高性能化や細径化が進み、現在は全ての消化管の撮影、診断治療ができるようになりました。これに伴い、がんの早い段階での発見、診断と共に、患者さんにとって負担の少ない治療が可能になっています。現在、日本の内視鏡の診断・治療技術は世界でもトップクラスで、特に名大病院では上部（食道、胃、十二指腸）、下部（大腸、小腸）、

胆道、膵臓、肝臓の全消化器疾患の診断・治療を得意としています。

このような状況のため、消化器内科は海外の多くの研究者、医療従事者と交流しております。しかし、アジア諸国では、内視鏡技術を持つ医師が少ないにも関わらず患者が多すぎて内視鏡の検査に要する時間が一人わずか1、2分と少なく、早期のがんを見つけることは困難な状況です。以前より共同研究をしていたフエ医科薬科大学より、内視鏡指導をしてほしいとの要望があり、その要望にこたえるためと、ベトナムでの内視鏡技術を向上させるために、企業や官庁などの様々な協力を得て、昨年9月にフエ医科薬科大学に、名大病院との医療協力によってベトナムの若手医師を育成する「内視鏡トレーニングセンター」を開設しました。

（2013年9月から2014年2月まで）、実技指導を行ってきました。昨年12月には早くも早期胃がんを発見し、内視鏡治療に成功しました。目に見える成果が出たことで、ベトナム各地の医療機関でも内視鏡トレーニングセンターを要請する声が高まっています。

名大病院では、この内視鏡技術をベトナムだけでなく他のアジア地域へも広めようと、今年3月、院内に「アジア内視鏡トレーニングセンター」を設置しました。すでに数か国から医師等が来名し、内視鏡診断、治療手技などの指導を受けています。ここでしっかりと学び、帰国後は国のリーダーとなって若手医師を指導できるような医師を育成するのが、本センターの目的です。



ベトナム保健省からの依頼で現地の若手医師のためのトレーニングカリキュラムを作成すると共に、日本から医師と看護師50人を派遣し

センターでは、アジア諸国での内視鏡診断・治療の向上に貢献することによって、アジアの人々の健康増進に寄与していきたいと考えております。

健康講座

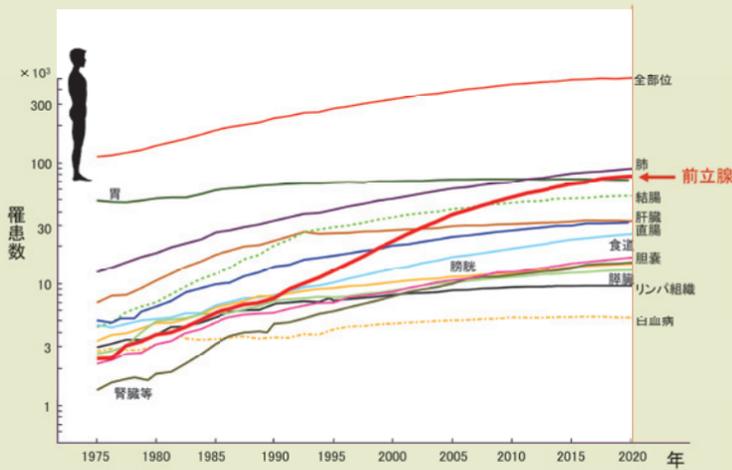
前立腺がんと前立腺特異抗原 (PSA)

泌尿器科長 後藤百万

本では前立腺がんの患者数が急増しており、2020年には男性でのがん罹患率第2位になると推計されています。前立腺がん罹患率は加齢とともに増加しますが、前立腺特異抗原 (prostate specific antigen: PSA) の測定により早期発見が可能となり、検診体制の充実が重要な課題となっています。

PSAの測定は、前立腺がんの診断において重要で、血液検査により血中PSAを測定します。PSAは正常な前立腺上皮細胞で産生されますが、がん細胞ではPSAの産生が亢進するため、血中PSAも高くなります。PSA測

定値が4ng/mlを超えると前立腺がんの存在を疑う必要があります。PSAはがんのみならず、前立腺肥大症や前立腺の炎症でも上昇することがありますが、4~10ng/mlはグレーゾーンと考えられ、20~30%でがんが見つかります。10ng/ml以上では前立腺がんの発見率は50%以上となり、20ng/ml以上では周囲に浸潤したり、転移したり、進行している可能性が高くなります。現在、市町村の老人健診において約70%がPSA測定を採用しており、PSA測定の普及により、早期前立腺がんの発見率が上昇しています。なお、PSAが4ng/ml以上の場合には、肛門から針を前立腺に刺して組織を採取する前立腺生検により組織検査を行い、確定診断を行います。



本邦男性におけるがんの部位別罹患率と将来予測
男性における前立腺がん罹患率は2020年には肺がんに次いで2位になること推定されている。

看護師募集



当病院では看護師を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

● 看護部ホームページ
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/kango/index.html>

3月11日(火)中央診療棟2階リハビリ広場にて、名古屋大学医学部室内合奏団によるスプリングコンサートを開催しました。本学医学部生によるコンサートは、ここ数年毎行われていました。最初は、全員の合奏によりビゼーの「アルルの女」組曲より「アランドール」から始まり、映画音楽のテーマ曲やアニメの曲、CMで使われた曲など、親しみのある曲が演奏されました。学生連の直向きな演奏にしばし聴き入り寛ぐことができました。

「スプリングコンサート」を開催しました



ミニニュース